

陳 述 書

2025 年 4 月 23 日

福岡高等裁判所 御中

氏名 浅田 正文（福島原発事故避難者）

住所 石川県金沢市

はじめに

浅田正文です。私は福島原発事故に遭い石川県金沢市へ避難を余儀なくされています。原発事故被害者として陳述します。

東京電力福島第一原発事故 —— <国富>とも言える自然との共生生活を奪われた ——

私は 54 歳で早期退職し東京から福島へ移り住みました。俗に言う「I ターン」です。移住して数年後に<自然農>に出会うと共に、自給自足を目指した生活になっていきました。自然農は、無農薬・無肥料・雑草を抜かず・虫を敵とせず・土地の持つ力を引き出す農法であり、命の賑わう畑です。青空のもと足踏み脱穀機の本音を聞き、自家製大豆で豆腐を毎週造り、ゆったりした時の流れに身を預けた平穏な日々、<国富>そのものでした。

かつての上司が来られ、散歩時に摘んだ穂の芽を天ぷらにしたところ、味にうるさい上司が「料亭で食べるものと全く違う食べ物だ」と絶賛。お金には換算できない自然からの贈り物に溢れた生活でした。

一方、米・大豆・雑穀などを 1 年分備蓄し、薪ストーブ・薪風呂・太陽熱温水器・井戸水の生活。十分な備蓄があり災害に最も強い生活であり避難の必要のない生活だと妻と話し合っていたものです。

ところが 2011 年 3 月 11 日に放射性物質が降ってきました。我が家は原発から 25Km ですが避難指示が出されました。田圃への生活道の土壌汚染は 100 万ベクレル/m²を超えました。チェルノブイリ事故の避難義務ゾーンの 2 倍です。自然農にとって致命的なダメージです。

事故直後に発せられた「原子力緊急事態宣言」が現在も発令中であり事故は継続しています。汚染された土地、住めない土地が出来てしまったことは、<国土の喪失>と言っても過言ではありません。

避難生活 —— 深い傷が心に ——

避難生活（居候生活）が始まり、居候の息苦しさからある日、兼六園（日本 3 大庭園）へ行きました。福島で寒さに慣れているはずなのに寒さが足元からぐんぐん上がってきます。寒さが心に追い打ちをかけたと思えてなりません。

避難数か月後、一時帰宅しました。その時に知人から「私たち残った者で除染をしたのよ。あなたのように戻ってこない人がいるから風評が無くならないのよ」と面と向かって言われました。口に出さずとも同じ気持ちの人が沢山いるのだろう、と感じざるを得ません。朝 5 時からの草刈りや、葬式準備も集落が一体になり進める濃密なコミュニティです。帰還しても村人と付き合えるのだろうか？全く自信がありません。

加えて、青年が福島のために働きたいと帰還のニュースを見るにつけ、避難した後めたさに襲われます。

原発事故は土・水を汚染するばかりではなく、言い表わしようのない傷を心にも刺し込んだのです。

能登半島地震 —— 避難不可能が露わに ——

昨年元日に能登半島地震が発生、震源の珠洲市は震度 7、原発立地の志賀町も震度 7。土砂崩れ多発と、家屋が道路へ倒壊し陸路避難不可。海岸が最大 5.2m 隆起し海路避難も不可。悪天候で空路避難も不可。家屋損壊で自宅待機も不可。避難計画が絵に描いた餅であることが露わになりました。

防災センター（要配慮者避難用の陽圧設計）は地震に耐えましたが、附属する合併浄化槽は地盤隆起・陥没で使用できず簡易トイレを屋外に設置する始末でした。原発事故が重なれば被曝必至です。設計の盲点、想定外だったと感じずにはおられません。

原発は危険 —— 想定外は許されない ——

人口密集地に原発は建っていません。原発は危険なのです。地震大国日本・中央構造線・南海トラフ・未確認活断層・地震予知の難しさ、火山国・火山灰堆積、脆性破壊・金属疲労、設計ミス・工事ミス・ヒューマンエラー、等々。原発事故に＜想定外＞との言い逃れは許されません。

おわりに

僭越ながら ＜大飯原発運転差止判決 2014-5-21 福井地方裁判所 樋口英明裁判長＞の判決文の一部を読み上げます。（陳述時間の制限上、趣旨を変えず表現を若干変更）

- 個人の生命、身体、精神及び生活に関する利益はその総体が人格権であり、人格権は憲法上の権利であり（13 条、25 条）、また人の生命を基礎とするものであるがゆえに、我が国の法制下においてはこれを超える価値を他に見出すことはできない。
- 豊かな国土とそこに国民が根を下ろして生活していることが国富である。

東電は、爆発を免れた福島第二原発の全機廃炉に難色を示しましたが、廃炉を求める福島県民と知事の大きな怒り、故郷を汚された悔しさ、強い要求に抗えずに 2019 年 7 月 31 日に廃炉を決断しました。

久留島群一裁判長様、山下隼人裁判官様、渡邊典子裁判官様。何よりも国富の喪失、生業の喪失を、身をもって体験した福島県民の原発はもうこりごりとの願い、思いを共にしていただきたい。フクシマを再び起こしてはなりません。